

「けあらしの里」で留萌の冬を楽しむ

子どもたちが主役

この冬、子どもたちが主役のイベントが行われました。吹き付ける風と雪に覆われる厳しい留萌の冬を逆手にとり、冬を楽しむのが、「けあらし塾」「けあらしの里」です。

主催はNPO法人留萌観光協会と地域おこし協力隊員ら。冬休み期間中に行われた「けあらし塾」では、小中学生31名が海のふるさと館で学習会とイグルー作りを楽しみました。

お兄さん、お姉さんのように子どもたちのサポートをするのは、地域おこし協力隊員と観光協会職員。冬休みの宿題や苦手科目などを勉強したあとは、イグルー作りに挑戦。

雪と格闘しながらも留萌の自然環境を体で感じる子どもたち一人ひとりの心の中には「留萌の冬は楽しいぞ」という、そんな思い出が刻まれました。

地域に今あるものの魅力を見つけ出し、この地に暮す人々が楽しむ。

観光資源の新たな芽生えがここにあります。

とにかく楽しむ

2月6日、7日に行われたのは、「けあらしの里」イグルー作り&宿泊体験。今年で2回目を迎えました。子どもたちや一般参加者らとイグルーを作ったり、夕陽を眺めながらドラム缶風呂に入ったたり、雪中バーベキューの「浜焼き」では、魚介類やシカ肉を味わいました。

寒さと非日常の楽しさを同時に共有する空間が「けあらしの里」の魅力です。「留萌ならではの冬の体験観光の可能性を探っています。スタッフ自身も楽しみながら、イベントに関わる人々との絆を深め合い、次のアイデアを生みだしたいです」と観光協会事務局長の海東剛哲さん。

けあらしは厳しい冬がもたらす幻想的な風景。

留萌港を、黄金岬を包み込む蒸気霧の美しさを知る留萌の人々が、名付けた「けあらしの里」は、けあらしが海を漂うように、楽しさ、魅力もじわじわと広がってきています。



「けあらし塾」でのイグルー作り。勉強の後、思いっきり身体を動かし、完成に向けてみんなで力を合わせました。



ドラム缶風呂の「けあらしの湯」。元気な子どもたちが歓声をあげながら入りました。



6日の夜、キャンドルの灯りのもと直径5mのイグルーの中で「浜焼き」を楽しむ参加者。

けあらしの里

開催：2月6日(水)・7日(木)
15:00～20:00
イグルー作り体験、浜焼き懇親会、イグルー宿泊体験が行われた。

[問い合わせ]

NPO法人留萌観光協会
☎ 43-6817